

重信房子同志の530メッセージ

リッダ闘争 39 年目を迎えて

2011 年5月8日記 重信房子

リッダ闘争から39年目のナクバの5月を迎えています。

今燃えあがるアラブ民衆蜂起の系譜を辿り、リッダ闘争の熱い民衆の声を思い返しています。

39年前、リッダ闘争の時代のパレスチナアラブ戦場は、「パレスチナ解放！ 人民戦争によってパレスチナ全土解放を！」、「イスラエルの国家テロを許すな！」と、民衆の憤怒と連帯に湧き上がっていました。

パレスチナの住民の参加も決定権もなしに「決定された」「パレスチナ分割」の1947年。それからイルグン、ハガナらのユダヤ人シオニストのテロ機関によって虐殺・追放されたパレスチナの人びと。67年には米国の支援によって一方的にパレスチナ全土を強奪・占領したイスラエルは、シリア領ゴラン高原・エジプト領シナイ半島をも奪ったのです。

もはや国連やアラブ諸国政府を頼ってでは自らの家族の命も故郷も守ることはできない、自らの運命を自らの力で切り拓きパレスチナ祖国を解放するのだ！ 67年の戦争を直視し、パレスチナ解放勢力は自らを組織し、「PLO」パレスチナ解放機構を変革しました。そして武装闘争を最良の闘争形態と規定し、人民戦争戦略によってパレスチナ全土を解放すると宣言しました。占領されたパレスチナを囲む国境地帯からのゲリラ戦の闘いに加えて、国際遊撃戦としてイスラエル・シオニズムに対する闘いを採用しました。

リッダ闘争もまたそうした闘いの一角として担われました。

こうした闘いは、長い間、反植民地闘争を闘いぬいてきた民衆の圧倒的支持支援につらなる闘いであったのです。「イスラエル建国」は、アラブ民衆にはとうてい受け入れることのできない不正義であり、反イスラエルを立場として政権もまた対峙してきました。

しかしイスラエルとの戦争の継続はアラブの豊かな歴史と文化にもとづく建国を困難にし、「軍事国家」として軍人が建国のヘゲモニーを持たざるをえず、ことにきびしい地下戦争は対スパイ治安・安全保障第一の国づくりとして、軍人指導部の特権が育つ構造が深まりました。当時の冷戦下、イスラエルと反ソ反共同盟下にある米国と対峙したソ連東欧は、アラブ諸国を武器・情報で支援し友好を結びました。それはまたボルシェヴィキ型の一党独裁権力による政権維持を育てるきっかけにもなりました。

アラブの民衆は、「イスラエル建国」によって不当な状況にあるパレスチナ解放を支援しつつ、しかし「反イスラエル」の名において政治的自由を抑圧する自国の軍事政権の改善を求めてきました。リッダ闘争に対して国家・民衆一体となって熱狂的に支持した姿は、公正なパレスチナの解決に向けて闘う限り民衆も政府も一つになってすすむ力を持っている姿でした。こうした闘いを経て74年、パレスチナは国際社会に正当なパレスチナ建国主体として認められていきました。

あのリッダ闘争から39年、パレスチナ指導部を含むアラブの諸政権は、反イスラエルの闘いよりも、ことにソ連東欧崩壊後の困難の中で「政権維持」を優先し、民衆の要求を抑圧してきました。ある国では、かつて自分たちが倒した王様のように人民の富を独占し、再配分を民衆に返そうとしませんでした。民衆の怒りは臨界状態にあったといえるでしょう。

イスラエル・アメリカは反体制勢力を自らの利益のために支援し、親米政権勢力の拡大に向けて国際機関を動員して民衆蜂起に介入しています。とくにイランやシリアには力を注ぎ、「イスラエルの安全」をめざしています。しかしアラブ民衆は、イスラエルに対する公正な裁き、被占領地の返還、パレスチナ問題の解決抜きには、米国やイスラエル・シオニストの夢想を許さないでしょう。ウサマ・ビンラディンの虐殺もまた無法なアメリカの本性を示すがゆえに、アラブの民衆はウサマ・ビンラディンらの反対者であっても怒りを持つでしょう。

こうした民衆の変革を求める羅針盤のように、パレスチナ解放闘争は今、解放勢力の分裂から統一したパレスチナの再生を宣言しています。パレスチナ解放闘争はアラブ民衆の闘いの反面教師でもありました。今、アラブパレスチナの民衆の蜂起の希望を反映し、統一した民主的なパレス

チナ解放・建国へと歩を進めようとしています。利権特権に立つパレスチナ指導部の一部は米国の支援を受けて、希望の再生の闘いに死力を尽くして対決するかもしれません。しかしパレスチナアラブ民衆の願は公正なイスラエルへの裁きと共に富の再配分を含む民主化を求めています。

リッダ闘争の闘いに湧きたった民衆の声は、統一パレスチナによる祖国解放とパレスチナ建国として、今、よりきびしい一歩を歩きはじめています。このリッダ闘争の39年目に、アラブ民衆の羅針盤として、パレスチナの闘いが育つことを願ってやみません。

それはまた、3・11大震災によって新しい時代を迎えた日本の再生とつながっています。人災フクシマ原発から平和日本への徹底、脱原発、核も基地も不要な再生日本の道です。それは国民住民主権の力を各地に育て結び合う平和と公正の国際社会への貢献の道でもあります。

新しい時代を創る人びとと共に！ パレスチナに連帯！

ライラ・ハリッド同志の530連帯挨拶

同志たち、友人たちへ

5月30日、若い日本人の解放戦士たちがパレスチナへ命を捧げた日を記念して、パレスチナと離散先で難民を続けるパレスチナ人を代表して、先ごろの東日本災害と原発崩壊の犠牲者や被害を出した家族の皆さんにお悔やみを申し上げます。

私たちパレスチナ人は、自然災害であれ占領と同じ人災であれ、場所が何処であれ、人々の苦しみと痛みを共にします。

占領は、その凶悪な表情であるが故に、テロリズムの代表です。そうであるが故に、日本の同志たちは、自分たちの命をも失うだろう武装闘争を含めあらゆる手段で、パレスチナの民衆を支援するのは正義であり合法だと感じとったのです。

同志、友人たち

私たちは、この世界のあらゆるところで不正義と対峙しているグローバルな運動の一部です。

私たちパレスチナ人は、占領を終わらせ解放を目指す解放戦士の一翼として残虐なイスラエルの占領と対峙し続けていることを誇りに思います。

解放への大儀は分断されません。何故なら、人類共通の課題だからです。

私たちパレスチナ人は、私たちの闘争に参加し、今も参加し続けている支援者たちに多大な感謝を表明することに誇りを持っています。

あなたたちの支援によって、イスラエルのパレスチナ占領があらゆる暴虐を与えているにもかかわらず、困難な闘いを続ける強さと勇気を更に得ています。

この記念日に際して、私たちパレスチナ人は、引き続き支援へ感謝を表明します。そして、私は、多様なレベルで行われているイスラエルへのボイコット運動に参加するように呼びかけます。それは、経済的にはイスラエル産品の不買運動、学術的にはイスラエルのアカデミーと断絶などです。

解放闘争の戦士たちに栄光を！ 帝国主義とイスラエル占領に対する闘いを共に！

あなたたちの同志 ライラ・ハリッド

岡本公三同志の530メッセージ

530リッダ闘争三九周年記念日へのメッセージ

2011年5月21日岡本公三

今回、リッダ闘争三九周年記念日を迎えるに当たって、連帯の意志を表明したいと思います。

今年は、3月11日の東北関東大震災をまず第1にあげることができると思います。地震・津波、福島原子炉の損壊による放射能汚染、この三つが今回の重要なポイントだと言うことが出来ると思います。

地震については、マグニチュードで、1995年に阪神大震災以来の—それを超えるものでした。

津波については、震源が三陸沖ということもあって、東北地方の太平洋岸に大きな被害をもたらしました。

三番目の放射能汚染については、アメリカのスリーマイル島レベルを超えたものという事が出来ると思います。いずれにしても、日本においては最高度の放射能汚染問題という事が出来るでしょう。

いろいろと複雑な事情があるようですが、「ガンバレ、東北日本！」をエールとして送りたいと思います。

一方、アラブ世界では、エジプト独裁者大統領のムバラクやリビア独裁者大統領カダフィーの独裁政権が、大衆運動の高揚により退くような流動化状況を呈しています。エジプトのムバラク大統領については永年の独裁で安定したよき社会を創造しようとして来ただけに、流動化状況が生まれるとは想像もつきませんでした。

アルゼンチンのペロン独裁者大統領についても同じことが言えるようです。リビアの独裁者カダフィー大統領については、アメリカ合衆国の制裁処置が大きく影響していると思いますが、隣国エジプトとの関係は今迄通り大きな変化は無いように思えます。

最後に、今年は、三月、四月にあるはずだった日本からの訪問客も無く、少し寂しい気がしました。若松孝二監督には、来年会えるように、よろしくお伝え下さい。ガンバレ東北日本！